

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際交流センター
評価基準 2	教育研究組織
点検・評価項目(1)	2-1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
評価の視点	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
点検・評価項目(2)	2-2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

2-1	・教育研究組織として、1) 教育面に関して、1978 年に設置した別科日本語研修課程を閉科（2008 年 3 月 31 日）し、その発展的継続として 2008 年、国際交流センターは人事権を持つ教員組織を有した。この結果、留学生科目や交流学生の日本語教育を見直し、2011 年に新カリキュラムを導入した。しかし、学部学科の特色を活かした抜本的な見直しに至らず、学部学科のカリキュラムポリシーを反映した新カリキュラムの検討時期を迎えている。2) 研究面に関して、北京事務所が研究面を支援する役割を果たしてきた。2007 年開設後、2009 年までに東アジア三大学国際シンポジウム（大東文化大学、山東大学、成均館大学）を 3 回実施した。しかし、その後は開催されていない。一方、教員組織を有したことから、特任教員 2 名を配置している。しかし、国際交流センター発行の「年報」「論集」といった研究成果の編纂までに至っていない。
2-2	・教育研究組織の適切性は、毎年度の自己点検・評価により検証している。

【効果が上がっている事項】

2-1	・別科日本語研修課程閉科後、国際交流センターは教員組織を持ち、教員人事権を有する管理委員会体制を構築した。 ・現在、留学生科目担当の特任教員（2 名）を有している。 ・2011 年、留学生科目に関する新カリキュラムをスタートさせ、同科目を 3 つのコース（①内容コース、②活動コース、③言語コース）に体系化した。
2-2	

【改善すべき事項】

2-1	・大東文化大学は、設立当初から地球規模の視座に立った「建学の精神」「教育の理念」を有している。さらに「建学の精神」の現代的読み替えを弾力的におこない、教育研究に取り組んできた。その精神や理念を体現するために、国際交流センターは本学の特色や強み活かした事業を攻めの姿勢で展開する必要がある。
2-2	・教育研究組織の適切性を、PDCA サイクを活用しながら検証する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

(2-1)	・大東文化大学HP：http://www.daito.ac.jp/information/activity/gp/index.html ・国際交流センターHP：http://www.daito.ac.jp/international_exchange/news/list.html ・大東文化大学入試広報『CROSSING 2014』 ・『別科日本語研修課程のあゆみ』（2008 年 3 月） ・J P I（日本研究所）主催第 1 2 2 6 9 回 J P I 特別セミナー 配付資料（文部科学省高等教育局高等教育課国際企画室長）
-------	--

《指標データ》

大学基礎データ（表 1）全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2014 年 4 月 1 日現在）

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	2-0 ・優秀な留学生の受入れを目指す、日本語教育の構築	・新カリキュラムを作成する。	→				
	2-0 ・Daito Go Global Project（派遣留学）を導入	・Daito Go Global Project の具体策を検討する。	→				
14 年度	2-0 ・日本語教育の現状把握と改善	・WG を立ち上げ、定例会を開催する。	→	C			

目標	に向けたWG立ち上げる。				
	2・0 ・Daito Go Global Project（派遣留学）を検討。	・Daito Go Global Project の具体策を検討する。	→		